

# 企業 ZOOM UP

第647回

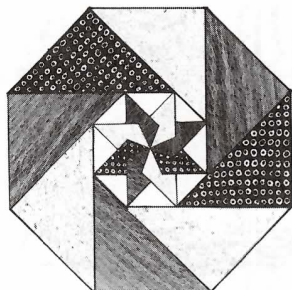
## ポートヘフナー

— ITだからこそアナログハート

8期目を迎えたポートヘフナー（株）の2015年のスローガンは「Drive Our Car!」、そして毎年デザインされるシンボリックアート（その年を象徴するデザインを公式イベントに掲げる）は八角形である。八方位に広がる宇宙の形とも言われて縁起が良く、そのシンボリックアート（下記写真）には、安定した八角形が折り重なることで、均等な美しい形が生まれることを表している。社員がどんどん増え、多くの折りシワをつけながら、より美しい姿へ成長していきたいという思いが込められている。

当社は、大手SIerから中央省庁や地方自治体向けシステムの開発・運用を請け負うほか、民間企業向けシステムの開発・運用を請け負っている。主力の官公庁向けシステムは、基幹システムである人事・給与システムの運用・開発に精通し、当社社員や外注先社員がクライアント先に出向き、24時間体制でのシステム異常や不具合対応を可能としている。「人事・給与システムは、システム上で評価を数値化することが難しく、利用する人々や関係する人々のことを考えて開発しなければならない」（齋藤社長）と語る。

齋藤社長は、当社の立ち上げ時から“ITだからこそアナログハート”を信念としてきた。システム運用業務のノウハウを活用し、クライアントの真のニーズを理解し、変化に柔軟に対応できるようIT環境づくりを提案し、IT業務における究極のサービスを追求してきた。このために社内研修制度を充実させ、国家試験で



Drive Our Car  
The 8th

2015年のシンボリックアート。多くの折りシワをつけながら成長していきたいという思いが込められている

「IT業務において究極のサービスの追求」  
と語る齋藤社長



あるITパスポート級以上をスタッフの7割が取得するなどITに関わる資格の取得を促し、技術的なスキルを高めている。だが、最も注力してきたのがチーム力の向上だ。

当社では、毎月1回、必ず全社ミーティングを行っている。それぞれのスタッフが抱える課題や悩みを全員で共有し、「自分の口から発言することが大事で、様々な角度から解決策を練っています」（齋藤社長）と語る。会が終わった後には食事会を開くほか、8月にサマーパーティー、12月にクリスマスパーティーを開催。それぞれの出向先で業務を行い、スタッフ同士の連携が難しいとされる業態で「チームワークは抜群!」と齋藤社長は自慢げに語る。

2014年から社員の成長や企業文化の醸成につなげるべく、新卒社員の採用を本格化。官公庁案件を中心に大規模な基幹システムを構築してきたノウハウを生かし、流通や小売りなど民間の大企業にも進出していく見込みだ。

出発地であり、目的地でもある“ポート”（港）には希望や達成、安心がある。ドイツ最古の弦楽器メーカーである“ヘフナー”は、個性と品質でメジャーメーカーになった。この二つの言葉を合わせたポートヘフナーは、世界にただひとつの会社を目指して、全社一丸となって大海原を力強く前進している。

（取材・文／東京支社情報部 安部 隼人）

### 会社概要

ポートヘフナー（株）  
 企業コード：960199604  
 東京都港区海岸1-2-20、電話03-6721-8555  
 齋藤讓司社長  
 設立：2008年1月、資本金：1000万円  
 事業内容：人事・給与などのシステム受託開発  
 年収高：約4億5800万円（2014年12月期）  
 従業員：30名  
<http://www.porthofner.co.jp/>